



北秋木材株式會社概況

北秋木材株式會社概況

(昭和二十七年五月現在)

本社 大館市板子石境九六 (電話 大館 一二九・五三)
増川製材所 青森縣東津輕郡三厩村増川 (電話 三厩 三)

沿革

當社は、現會長綠川賢策が、初代淺野總一郎氏の命を受けて鹿角郡熊澤硫黄礦山の業務に従事中、同礦山の專業休止に當り、大葛方面の國有林地を貫通して大葛村大谷より扇田町に至る延長十二哩の礦石運搬専用鐵道を無意味に撤去するを惜み、之を國有林材の搬出に利用せんと、着眼進言したのが創立の動機であつて、其後淺野總一郎氏の奔走と林野當局の御理解とに依り、年期特賣の始まりとして年間六万石五年間繼續の特賣を受け、明治四十年五月三十一日、淺野總一郎氏及び秋田木材株式会社（社長井坂直幹氏）の匿名参加による協同事業たる淺野製材所として、資本金五萬圓を以て扇田町に誕生した。

大正二年組織を變更し、淺野製材株式会社となり、資本金を十五萬圓に増額したが、創業日尙淺く基礎確立せざる間に大正初年の不況に際し、大打撃を被りつゝも、歐洲大戰を契機として遂次順調の歩を進め大正八年九月合資会社平泉商店（社長平泉喜八氏）を合併して、北秋木材株式会社と改稱、資本金を七十萬圓に増額、同十年九月大館製材株式会社（社長長島福藏氏）を合併、資本金を八十萬圓とし、翌十一年製材工場の火災予防を重視し、一部巷間批難の聲を排して總工費十二萬圓を以て現在の鉄筋コンクリート工場を建設すると共に製品及び原木取扱に隣接大館駅よりの引込線と構内流送用の水路施設を完成し、この二点が當工場の特徴をなしている。

同十三年十二月青森縣東津輕郡三厩村増川所在青森營林局増川製材工場を譲受け分工場として翌十四年一月操業を開始した。

昭和三年三月秋田縣製材工場の整理合同に際し、土崎港町前田製材株式会社（社長前田治平氏）、同町鈴木製材所（所長鈴木新吉氏）、秋田市栗原製材所（所長栗原源藏氏）の三工場を合同した。
昭和十五年八月滿洲國佳木斯市に滿洲木材加工株式会社（資本金百方圓、製材業及び樟丸業）を設立したが情勢の変化により同十八年設備一切を滿洲拓殖公社に譲渡廃業した。

昭和十七年九月増川分工場は青森縣地方木材株式会社に、同年十月大館工場は秋田縣地方木材株式会社に夫々統合されたが、北秋木材株式会社は之を存續し、昭和二十二年三月木材統制法の廃止に因り兩工場の返還を受けて引續き操業を繼續し、同二十四年三月資本金を三百萬圓に増額、青森市に青森事務所を開設し、他方逐年逼迫しつゝある製材事情に對處するため大館工場は縣内全般の企業整備に先立ち、同二十五年十二月旧來の三七八馬力を二〇〇馬力に壓縮合理化を斷行して、成果を収めた。

同二十七年三月青森事務所を閉鎖、同年四月札幌市に札幌營業所を開設、現在に及んでいる。

この間、大館工場は主として秋田特産天然杉による薄板製材に研鑽を重ね、創業以來年間平均九二、〇〇〇石（素材石）（昭和六年には年間一四五、〇〇〇石を記録）の生産を繼續、當所は、次いで終戦後は北印マークを掲げ、東京市場を主たる市場に殆ど全国各地に販路を擴めつゝ秋田産天然杉の聲價昂揚に貢献した。又増川工場は主として青森特産樺材の製材に専念し、年間平均四〇、〇〇〇石（昭和七年には六二、〇〇〇石を記録）の生産を繼續、北陸地方を主たる市場に、北海道、東京、その他各地に販路を開拓宣傳し青森特産樺材の認識と普及に盡力した。

四 附帶設備	吊下横切丸鋸盤 一台	耳摺丸鋸盤 四台	自動帶鋸目立盤 五台	自動丸鋸目立盤 一台	ストレッチャ― 三台	木工機械 一式	旋盤、ボール盤、形削盤 各一台	製品搬送ローコンベヤ―設備一式	ドラム式木枝垂直捲揚設備 一式
五 原動機	電動機 八台	二基	横置多管式汽罐 二基	横置單筒汽機(公称二〇馬力) 一台	吊下横切丸鋸盤 三台	耳摺製函丸鋸盤 五台	自動帶鋸目立盤 三台	自動手動丸鋸目立盤 各一台	ストレッチャ― 二台
	電動機 二基	横置多管式汽罐 一基	横置複筒汽機(公称一〇馬力) 一台	電動機 二台	瓦斯機關 二台	インクライン式木材水揚設備 一式	トロックケ―ブルライン設備 一式	鋸屑搬送コンベヤ―設備 一式	木枝ケ―ブルライン設備 一式
	機帆船 一雙								

事業の範位	一 大館本社工場	主として秋田杉官民枝の製枝、木工、販賣	大館市板子石境九六
	二 増川製枝所	主として青森櫻杉枝の製枝販賣	青森縣東津輕郡三厩村字増川
	三 札幌營業所	各種製枝品及び原木の賣買	札幌市北十條西十七丁目三六
關係会社	一 弘前木枝株式會社	資本金 一九万五千圓 従業員 二七名	五〇馬力 弘前市和徳字俵元八一
	二 大館醸造器株式会社	資本金 一九万五千圓 従業員 六名	大館市板子石境九六
工場施設	(大館本社工場)		
	一 敷地	一七、五九二坪	
	二 建物	延二、〇三三坪	
	三 主要機械	自動送枝車付帶鋸盤 五台	自動送枝車付帶鋸盤 二台
		テ―ブルバンドソ― 四台	テ―ブルバンドソ― 三台
		横切帶鋸盤 一台	腹押丸鋸盤 三台
	(増川製枝所)		
	延	八八五坪	

厚生施設

北海道 七%
 青森 一%
 其他 六%
 北海道 二二%
 東京 一七%

(大館本社)

(増川製材所)

(計)

- 一 社宅 一二棟 二五戸 五三〇坪
 居住者 一一四名
- 二 獨身社員寮 一戸 四六坪
 一戸 四六坪
- 三 俱樂部 一戸 一七坪
- 四 親睦会 一戸 一七坪
- (イ) 基金 三七二、九三三圓
 (ロ) 慶弔既支出額 二二八、三七五圓
 (ハ) 會員貸付額 六八、六〇〇圓
 テニスコート 一両

一八六、〇〇〇圓
 一一四、一九〇圓
 〇
 五五八、九三三圓
 三四二、五六五圓
 六八、六〇〇圓
 一両

従業員

(大館本社工場)

(増川製材所)

(計)

- 社員 二二名 六名 二七名
- 工員 一〇二名 五一名 一五三名
- 計 一二三名 五七名 一八〇名

生産状況 (單位素材石)

(大館本社工場)

(増川製材所)

(計)

- 一 創業以來年間平均生産高 九二、〇〇〇石 四〇、〇〇〇石 一三二、〇〇〇石
- 二 創業以來年間最高生産高 一四五、〇〇〇石(昭和六年度) 六二、〇〇〇石(昭和七年度) 九〇、〇〇〇石
- 三 最近の年間生産量 六〇、〇〇〇石 三〇、〇〇〇石

製品販路

(大館本社工場製品)

(増川製材所製品)

- 昭和二十六年産績 東京 七八% 北陸 三一%
- 縣内 八% 縣内 三〇%

主なる株主

緑川 正二 雄
 緑川 大 助
 菊地 順 郎
 守橋 至 郎
 緑川 林 造
 竹川 賢 策
 秋田 銀 昌
 熊田 行 昌
 緑川 光 岸

二、三、五七六株
 八、二五〇株
 五、〇〇〇株
 四、四八一株
 四、〇〇〇株
 三、七〇〇株
 三、一五〇株
 三、〇〇〇株
 二、〇〇〇株
 一、五五三株

役員

取締役社長 緑川 賢 策
 取締役社長 緑川 正 雄
 常務取締役 緑川 大 二 郎
 取締役 佐藤 真 三
 取締役 小林 喜 代 太
 監査役 竹村 英 二 郎